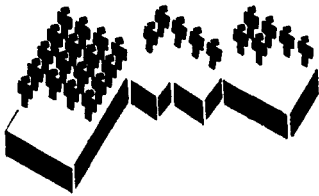


極的にこちらで表彰するというのもいいですね。
徳山 他の学会のシステム技術の発表なんかも OR であっていいわけですね。
真鍋 その点は、いま研究普及委員会で進めているようですが、関連の学会である経営工学会、品質管理学会と合同で研究発表会を開こうというはなし。来年あたり実現しそうだということです。
大野 そういう、いろいろの見方をもった人たち

が集まるというのは、いいことですね。
真鍋 まだいろいろお話しをうかがいたいのですが、予定された時間がきてしまいました。きょうは、ほんとうにありがとございました。なお東京都庁の木下望さんほか、数名の方の自主的なご参加がありました。厚くお礼申します。これにこりずに、今後とも、こういう会にはぜひ積極的にご参加くださいますよう、お願いいたします。



会員近況

防衛大学校社会科学教室 **山田 武夫**

昭和54年9月より3年ほどスタンフォード大学、経済システム工学科 (EES) へ留学し、Luenberger 教授のもとでシステム論へのグラフ理論の応用に関する博士論文をまとめることができました。EES で日頃強調されたのは「実際問題を解け」ということで、EES の大学院生たちが習いたての (数学的にはさほど高級でもない) Decision Analysis などを武器に、積極的にさまざまな実際問題に挑戦している姿は誠に印象的でした。

帰国後は理工学研究科 (修士担当)、および管理学専攻の文科系学生に OR、システム分析等の講義を行っていますが、話が数学的になればなるほど、学生たちには実際の問題解決には無縁のしるものと感じられるようで、どのように動機づけし、興味を喚起すべきかに頭を悩ませています。今後、政策分析部会に出る予定ですので、よいアイデアをお持ちの方にもぜひご参加のうえご教示いただきますようお願い申し上げます。

日本電気(株)
 流通・サービスシステム事業部 **西村 俊郎**

OR マインドを忘れまいと心がけているシステムズ・エンジニアの 1 人ですが、コンピュータ業界に身を投じて以来 OR の世界とは疎遠な環境において活躍 (?) しております。しかしながら、コンピュータ全般に目を向

けると、OR 的アプローチを必要とする課題が多く残されていると思われま

す。ソフトウェアの生産性および信頼性の向上は、将来においても最も重要な課題であり続けるはずで

す。生産性および信頼性の向上を促進させるためのツールが出現しつつあることも事実ですが、やはり属人的要素が非常に強いだけにむずかしい問題となっているわけ

です。
 鶴路(株) 商品管理部第 2 課 **嶋路実紀生**

この属人的要素の解析、適性に関する分析および生産性向上を目的とした最適なチームづくりの問題等に、もっと OR 的アプローチ手法が活かせるのではないかと考えています。さらに、投入費用とバグ件数の相関による投入費用対バグ件数の最適化問題等においても OR の活躍の場があると思われま

す。このように、ソフトウェアの生産性および信頼性の問題に対して、OR 的アプローチ手法が解決策を導いてくれんことを期待しています。
 経済学者サムエルソンは、その名著 Foundation of Economic Analysis の中で “Mathematics is a language” と言っています。耳の痛い言葉です。学部時代おもにエコノメトリクスを専攻していた関係上いやがおうでも数学とつきあわざるを得ませんでした。そして月 1 回程度数式の証明問題をレポート提出するという状態でこれが経済学なのかと思うことがしばしばでした。
 現在医薬品卸の商品管理という仕事をしていますが、それこそ毎日毎日が OR の古くて新しい問題「在庫問題」の実践の連続です。ほんとうに需要予測というものがむずかしいと痛感し OR をどのように応用するかがもっかの最大の課題であり、当分 (もしかすると永遠かもしれませんが) 数学と縁が切れないと思います。